

令和6年度 事業報告書

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日



社会福祉法人ゆいまる

1 法人基本情報

法人名称	社会福祉法人ゆいまーる
法人番号	2350005005346
所在地	〒885-0093 宮崎県都城市志比田町4526番地3
設立認可年月日	平成25年12月25日
設立登記年月日	平成25年12月27日
理事長	迫田 善子
連絡先	TEL:0986-36-7012/FAX:0986-36-7013/Mail:yuimaru@yuimaru.biz
ホームページ	https://yuimahru-fun.com

2 人事に関すること

職種	正職員	非常勤職員	合計	備考
理事	—	6	6	
評議員	—	7	7	
監事	—	2	2	
施設長	1	—	1	理事を兼務
サービス管理責任者	3	—	3	生活介護
児童発達支援管理責任者	1	—	1	放課後等デイサービス
サービス提供責任者	2	—	2	訪問介護、居宅介護
サビ児管補助	4	—	4	基礎研修修了者
児童指導員	5	—	5	
保育士	3	1	4	
看護師	2	4	6	
介護福祉士	10	2	12	
男性職員	6	5	11	3名入社、2名退社
女性職員	11	8	19	4名入社、4名退社

令和7年3月31日付退職者3名

3 事業に関すること

相談支援事業所のぞみ	計画相談支援	障害者総合支援法
	障がい児相談支援	児童福祉法
障害福祉サービス事業所ゆいまーる	生計困難者に対する相談支援	第二種社会福祉事業
生活介護事業所ゆいまーる	障害者通所支援	障害者総合支援法
短期入所事業所ゆいまーる	障害児者ショートステイ支援	障害者総合支援法
放課後等デイサービス事業所ゆいまーる	障害児通所支援	児童福祉法
地域生活支援事業	日中一時支援	市町村公益事業
	移動支援（外出支援）※休止中	
居宅介護事業所ゆいまーる（休止中）	居宅介護	障害者総合支援法
	重度訪問介護	
	同行援護	
	行動援護	
訪問介護事業所ゆいまーる（休止中）	訪問介護・総合事業予防介護	介護保険法
	有償日常生活支援	公益事業

【事業実績】

部 門	法人本部
事業概要 (目的)	法人の業務の決定 理 事 会：法人経営の執行機関 評議員会：法人の重要事項議決機関 評議員選任・解任委員会：評議員の選任及び解任機関 法人運営のための事務局運営、各種業務
事業内容	○理事会の開催（年４回、議案１２件を提案） ○評議員会の開催（年１回、議案１件を提案） ○責任者会議の開催（年１２回） ○組織体制・機能の強化 ○人づくりの取組み ■各種委員会活動（虐待防止委員会含む）
事業成果	■正職員１６名（４月１日採用１名を含む）に辞令交付、パート職員１４名、合計３０名でスタートした。年度内に正職員１名、パート職員を５名採用。年度末までにパート職員６名が退職（うち１名が期間限定雇用）。結果的に正職員１７名、パート職員１３名、合計３０名で令和６年度を終えた。 ■働き手の確保手段としてＹｏｕＴｕｂｅショート動画（２３本）を活用し求人募集した結果、令和６年度末に保育士＋社会福祉士を１名、准看護師１名を確保することが出来た。今後も引き続き取り組み、動画が利用者獲得の一助となるよう、更に工夫していく。 ■理事会等は全て対面形式で実施することができ、またオンライン方式も併用してより柔軟に対応したことで、欠席も少なく開催することが出来た。 ■昨年度に引き続き、事務局体制の基盤強化として理事会ごとに必要な各規則の改正が図られた。 ■業績の大幅な改善により、令和６年度末で役員等長期借入金が完済出来た。これにより、メインバンクからの信用も回復した。 ■令和６年度の全体収支としては黒字決算となった。 ■都城市自立支援協議会の重心部会だけでなく、宮崎市自立支援協議会の「暮らし支援部会」及び「医療的ケア支援部会」にもリモート参加しており、他市の取り組みについての情報交換が出来ている。

監事監査 2024年5月14日（火）10:00-12:00 於法人事務所	
出席	監事 2名（堀英明、永代ひとみ）、理事長（迫田善子）
内容	①令和5年度事業報告について ②令和5年度決算について
結果	事業報告／決算について適正な処理が承認された
第1回 理事会 2024年5月24日（金）19:00-20:00 集合対面方式	
出席	理事 6名（迫田善子、足立英一、前田薫、徳永紫保、前島久美子、堀内大敬） 監事 2名（堀英明、永代ひとみ）
議事進行等	議長：迫田善子 議事録署名人：迫田善子、堀英明、永代ひとみ
議案	①令和5年度事業報告及び決算について ②職員慶弔見舞金規程の一部改正について ③役員等慶弔見舞金規程の一部改正について ④令和6年度定時評議員会の招集について
結果	全ての議案について承認された
定時評議員会 2024年6月8日（土）10:00-11:00 集合対面方式	
出席	評議員 5名（山下喜代美、堀克、三浦めぐみ、阿多美和、坂口えい子） 監事 2名（堀英明、永代ひとみ）、理事（迫田善子、堀内大敬）
議事進行等	議長：堀克 議事録署名人：山下喜代美、坂口えい子
議案	①令和5年度事業報告及び決算について
結果	全ての議案について承認された
第2回 理事会 2024年9月17日（火）19:00-19:55 集合対面方式	
参加	理事 5名（迫田善子、足立英一、前田薫、徳永紫保、堀内大敬） 監事 2名（堀英明、永代ひとみ）
議事進行等	議長：迫田善子 議事録署名人：迫田善子、堀英明、永代ひとみ
議案	①就業規則の一部改正について ②令和6年度理事長執務執行状況報告について
結果	全ての議案について承認された
第3回 理事会 2025年3月7日（金）19:00-19:55 集合対面方式	
出席	理事 5名（迫田善子、前田薫、徳永紫保、前島久美子、堀内大敬） 監事 2名（堀英明、永代ひとみ）
議事進行等	議長：迫田善子 議事録署名人：迫田善子、堀英明、永代ひとみ
議案	①令和7年度事業計画（案）及び収支予算（案）について ②令和6年度理事長執務執行状況報告について
報告	令和6年度の決算見通しと各事業の取り組み／訴訟案件の進捗状況
結果	全ての議案について承認された
第4回 理事会 2025年3月26日（水）18:30-19:00 オンライン方式	
参加	理事 6名（迫田善子、足立英一、前田薫、徳永紫保、前島久美子、堀内大敬） 監事 2名（堀英明、永代ひとみ）
議事進行等	議長：迫田善子 議事録署名人：迫田善子、堀英明、永代ひとみ
議案	①評議員候補の推薦及び評議員選任・解任委員会の開催について ②令和7年度定時評議員会の招集について
結果	全ての議案について承認された

部 門	相談支援部門
事業概要 (目的)	障害者総合支援法(平成25年4月1日施行)に基づく計画相談支援事業として、 <u>障がいのある人や家族からの生活に関する相談に応じるとともに、障がい児者福祉サービスを申請する際に必要となる「サービス等利用計画(案)」を作成する相談。</u>
事業内容	○サービス利用支援 障がい福祉サービスの利用時に、その利用者にとってどのような障がい福祉サービスが最適かをマネジメント。障がい福祉サービスの申請時に提出する『サービス等利用計画案』の作成から、障がい福祉サービスの支給が決定した時の連絡や調整、サービス等利用計画の作成に至るまでを提供。 ○継続サービス利用支援 作成された『サービス等利用計画』が適切であったかを評価し、必要であれば見直しを行いより最適なサービスへ修正を行う。 ○令和6年度実績 <利用登録者> 計画相談 88名／児童相談 33名 計 121名 <相談対応件数> 計画相談 410件／児童相談 117件 計 527件 <新規契約> 計画相談 12件／児童相談 2件
事業成果	■令和6年度は、相談支援専門員専従2名体制で稼働した。 ■相談支援分野は、専門員一人の担当数が多く(60.5件)、一件当たりの対応量も非常に多い(介護保険制度では担当上限35件)。0歳～90歳代、障がいの種別、内容也多岐にわたる。 ■近年では、精神障がい者の方々の利用者様の精神安定に繋がる為の相談が増えてきている為、業務時間外の対応も増えている。 ■成果として、担当している方やご家族からの相談等に真摯に向き合う対応が都城市障がい福祉課や基幹相談支援センターからの評価を頂き、今年度も多くの相談が寄せられた。 ■法人内の利用者様については、利用時の様子を見る事で、モニタリングの時期を待つ事なく問題解決に向けた事業所職員との意見交換ができた。 以上の事により、担当している利用者様一人一人の想いやご家族からの相談等に真摯に向き合い、寄り添いながら支援を行う事で、令和6年度は計画相談12名、児童相談2名の新規契約に繋がり、登録者合計121名に増えた。 障がい種別や年齢等様々であるため、アセスメント・計画相談の内容も異なる。これからも、一人一人に寄り添いながら、学ぶ事を忘れず、更により良い支援に努めていく。

部 門	みやぎき安心セーフティネット部門
事業概要 (目的)	地域の方々の生活上の困りごと等に対して、社会福祉協議会や民生委員・児童委員、関係機関等と連携・協働しながら相談援助を行うとともに、今日明日の食べ物にも困る等の逼迫した状況にある場合には現物給付による経済的援助を行う。
事業内容	支援の流れ 発見・連絡 社会福祉法人（施設）が支援を必要とする方の発見に努めます 相談できる人がまわりにいない。 生活に不安をかかえている。 今日、明日食べる物がない。 ご本人のお宅へ訪問 社会福祉法人（施設）の相談員と市町村社会福祉協議会の担当者で「行って、見て、聞いて」状況を把握します。 支援が可能な福祉制度の利用を検討します ・生活保護 ・生活困窮者自立支援事業 ・生活福祉資金貸付 ・介護保険 ・障害福祉サービス 等 相談・支援 相談者本人の意向を伺いながら、訪問・相談を通して必要な福祉制度につないだり、問題解決の方法を一緒に考え支援します。また、緊急を要する場合は、食材などの経済的援助（現物給付）を行います。（現金給付ではありません。） ※経済的援助（現物給付）は一時的な支援です。 ご本人の生活の自立を目標に継続的な見守り、相談支援を行います。 ○地域住民から相談があった場合、法人に配置された相談員（ＣＳＷ）は、上記フローに沿って、必要に応じ関係機関との協働を図りながら支援を進めていく。
事業成果	■令和６年度は生活困窮者ケースへ１件対応した。詐欺被害による生活困窮者支援について、水道料金の未納分５７，５９６円を立替払いし、県社協より全額還付を受けた。当該世帯には継続して訪問支援中。 ■ＣＳＷ関係の研修会に参加（２回） ■意見交換会・実践報告会に参加（２回） ■実践報告会では、対応事例の発表を行った。

部 門	生活介護部門
事業概要 (目的)	障害者総合支援法に基づき、常に介護を必要とする方に対して、 <u>自立の促進、生活の改善、身体機能の維持向上</u> を目的として通所により様々なサービスを提供し、障がいのある方の社会参加と福祉の増進を支援する。
事業内容	○入浴・排せつ・食事等の介護 利用者の身体状況や特性に合わせた支援を行っている。 ○創作的活動の機会の提供 事業所の飾りつけや外部イベントとのコラボなどを行っている。 ○身体機能や生活能力の維持向上のための機能訓練プログラムの提供 歩行器やバランスボール等を使用した歩行訓練やストレッチ、ボウリングなど遊びを通じた身体機能の維持向上とコミュニケーション力の向上を図っている。 ○生活等に関する相談・助言その他の必要な日常生活上の支援の提供 嘱託医による定期的な診察と助言、家庭での過ごし方や今後の生活の方向性など、本人ご家族の意向も確認しながら必要な助言等を行っている。 ○令和6年度実績 <開所日数／年間延べ利用者数> 年間 266日 / 3,200名 <年間収入実績> 52,029,312円 / 月平均：4,335,776円
事業成果	■令和6年度は、職員全員で定員20名達成を目指し、実習、見学、体験等、積極的に受け入れた結果、5名の新規契約に繋がった。 ■昨年に引き続き、短期入所との連携を深める事で、利用回数の増に繋がった（生活介護⇄短期入所との申し送りノート活用） ■職員の採用により、人員の配置にゆとりが持てる日が増え、個別支援の幅も更に広がり、午後からの活動の時間も利用者様のリクエストに応えながら、職員と一緒に身体を動かしたりしてみんなで楽しく過ごせる時間が出来た。 ■利用者様と職員とのコミュニケーションの時間にも余裕が持てる様になった事で、利用者様との会話が增え、体調面及び精神面の安定に繋がった。 ■職員間の連携及び情報共有が生活介護ホールの良い空気感に繋がり、見学等の感想で「利用者様が安心した表情をされていますね」「笑顔の多い施設ですね」との声を頂けた事が職員の自信に繋がっていった。 ■毎日、当番の職員を決めInstagram用に写真や動画を撮り投稿する事でご家族との会話の幅が広がった。 ■都城看護専門学校より小児看護学実習の依頼があり、令和6年10月21日（月）～11月14日（木）の期間1人につき2日間ずつの計画で受け入れを行った。 以上の事から、人員配置にゆとりを持てる様になり、個別支援の内容がニーズに合った対応が出来る様になった。 来年度は、職員一人一人のスキルアップに繋がる様に、ミーティング等の機会を定期的に設け、情報共有を徹底し統一した支援に努める。 また、ヒヤリハット・事故報告についても、その都度、対応の仕方について、職員全員に周知し徹底する事で安心安全な環境作りに努める。

部 門	短期入所部門
事業概要 (目的)	福祉型（障害者支援施設等において実施）事業所として、自宅で介護を行っている方が病気などの理由により介護を行うことができない場合に、障がいのある方に当事業所宿泊施設に短期間入所していただき、入浴・排せつ・食事のほか、必要な介護を提供する。併せて、介護者にとってのレスパイトサービス（休息）としての役割も担う。
事業内容	○入浴・排せつ・食事・着替えなどの介助 ○見守りや、その他必要な支援 ○施設内イベントや外出しての食事会等の実施 ○令和6年度実績 <開設日数／年間延べ利用者数> 289日開設 ／ 1,652名 <年間収入実績> 20,079,509円 ／ 月平均：1,673,292円
事業成果	■令和6年度は見学や問い合わせが多く、積極的に対応を行った事で、新規契約数が21名あった。また他事業との連携に努め、日中一時・放デイ・生活介護の契約を同時にされるケースもあった。 ■短期職員間の情報共有及び共通理解の為、短期LINE、申し送りノートの活用を行った事で、保護者の方々の信用、安心感にも繋がった。 ■定期的に「マンネリ化防止」に繋がる様に利用者様のリクエストに応えた食事やおやつ等を提供する事で、お泊りを「楽しい」と思って貰える環境作りが出来た。 ■短期入所が開設して3年目に入り、職員間の協力体制、信頼関係が深まってきた事が、利用者様の安心感に繋がり、アットホームな環境づくりが出来、利用人数の増加となった。 ■今年度は、医ケア児・者の受け入れについての問い合わせも多かった。市役所福祉課からの相談もあり、看護師配置の見直し等行い、ニーズ（連泊等）に合った受け入れが可能になる様に取り組んだ。 ■毎月、予約にバラつきがあった日等については、職員間で情報交換しながら、予約獲得の為に営業を行った。その結果、前年度から一千万以上の支援費収入の増加となった。 ■今年度は「都城市医療的ケア児等短期入所拡大促進事業補助金交付」の条件をクリアした為、申請を行った。福祉型7,000円／回の補助基準額に伴い、補助対象者の利用回数をかけた補助金の支給となる予定である。 以上の事により、短期入所が開設して3年目、リーダー配置を行った事で職員の意識も高まり、支援内容に取り組む姿勢に成長が見られた。また、保護者様とのLINE交換や電話連絡を細かに行う事で、信頼関係も深まった。 また、課題であった医療ケア児・者の受け入れについても、看護師配置の調整等行う事で、ニーズに合った受け入れが徐々に出来る様になってきた。 今後も関係機関や職員間の連携に努め、安心して預けて貰える様に個々のスキルアップに努めていく。

部 門	放課後等デイサービス部門
事業概要 (目的)	児童福祉法に基づき、学校に就学している6歳から18歳までの障がいのある児童に対し、個別や集団プログラムを通じて日常生活での動作の習得や集団生活への適応に向けた支援を行う。 障害者手帳を取得している必要はなく、医師などから療育の必要性が認められた場合には、自治体の判断により利用をすることができる。
事業内容	○自立した日常生活を営むために必要な訓練 集団におけるプログラムを通じて、学習のサポートや時間・持ち物などの管理、簡単な金銭管理や基本的なコミュニケーションなどを習得 ○創作的活動、作業活動 机上での工作や集団での制作、ゲームなどといったプログラムを通じ、学習とは異なる創作的な活動や他の子どもたちとの関わりの場を提供 ○地域交流の機会の提供 地域の中で多くの人と交流できるような機会を持てるような支援を提供 ○余暇の提供 休日や長期休暇などのイベントを通じて、学校や家庭では経験できないような余暇活動の機会を作り、家庭や学校外でも様々な経験を重ねていけるような支援を提供 ○令和6年度実績 <開所日数/年間延べ利用者数> 年間 269日 / 1,818名 <年間収入実績> 22,612,217円 / 月平均: 1,884,351円
事業成果	■令和6年度は、法人の活動内容を動画にまとめたQRコード付きカードを活用し、相談事業所への営業を行った。また、研修や担当者会議とでの名刺交換の際にも名刺と一緒にカードをお渡しした事で、事業所のPRに繋がった。 ■定員10名に足りていない曜日の新規利用に向けた契約に繋がる様に相談事業所からの見学相談も積極的に受け入れをした（新規契約数：10名）。 ■強度行動障害の実践研修を2名受講した事で、より質の高い支援を行う事ができた。 ■国富町で実施されたSST（ソーシャルスキルトレーニング）研修に職員1名が参加し、放デイに関わる他の職員に伝達研修を行い、スキルアップを図った。 ■年間の行事を通して、地域との交流及び保護者会を実施できた。 ■物価上昇に伴い、消耗品や行事の経費等、削減を意識しながら取り組んだ。 以上の事から、見学の受け入れ、法人のPR活動に努めた結果、少しずつ新規契約に繋がった。また、課題であった人員配置について、保育士の新規採用もあり徐々に体制が整ってきている。 令和6年度については法改正に伴う複雑化が不安要素になっていたが、随時関係機関への情報収集を行い、改善していった事で問題なく加算等の請求ができた。

部 門	日中一時部門
事業概要 (目的)	市町村公益事業として、障がい者及び障がい児の日中における活動の場を確保し、障がい者等の家族の就労支援および障がい者等を日常的に介護している家族の一時的な休息を図る。
事業内容	○障がい者等の見守り ○社会に適応するための日常的な訓練等に必要な活動の場を提供 ○介護者にとってのレスパイトサービス ○令和6年度実績 <開設日数/年間延べ利用者数> 日中一時 304日 / 1,790名 <年間収入実績> 日中一時 9,831,740円 / 月平均 819,311円
事業成果	■相談事業所からの問い合わせが多く、見学等、積極的に対応を行った結果、新規契約13名に繋がった。 ■看護師採用もあり、ニーズに合った医ケア児・者の受け入れが出来た。 ■放デイ、生活介護との情報共有が出来た事で安心安全な支援に努める事が出来た。 ■土曜日については、クッキングや外出等を企画し実施した事で利用者様に大変喜んで頂けた。 ■他事業との連携により、お互いの事業所間で利用者増に繋がるPRが出来た。 以上の事により、令和6年度は、他事業所間との情報共有、連携に努めた事で新規契約者13名増に繋がった。また、課題であった「日中一時職員配置」について、職員採用もあり（看護師含む）もあり、利用者様からのニーズに合った受け入れが徐々に可能になってきた。 今後も他事業所間との連携に努めると共に、見学・問い合わせ等について、引き続き積極的に対応していく。 また、Instagram等の活用をしながら、ゆいまーる日中一時のPR活動に努めていく。

【休止事業について】

◇居宅介護部門：令和5年11月末を以って休止

◇移動支援部門：令和5年11月末を以って休止（居宅介護の開設が条件のため）

◇訪問介護部門：令和4年度末を以って休止

→ 総合的に検討し場合によっては廃止への判断も

令和6年度 各事業所 年間利用平均人数

	生活介護 定員：20名		短期入所 定員：8名		放デイ 定員：10名		日中一時 定員：20名	
4月	246名	(22)	103名	(23)	160名	(23)	146名	(26)
5月	248名	(23)	111名	(25)	143名	(23)	145名	(27)
6月	243名	(22)	109名	(21)	155名	(23)	140名	(25)
7月	251名	(23)	122名	(23)	154名	(23)	172名	(27)
8月	275名	(22)	110名	(24)	137名	(20)	130名	(25)
9月	279名	(22)	120名	(24)	165名	(23)	148名	(25)
10月	291名	(23)	147名	(26)	149名	(23)	177名	(27)
11月	266名	(22)	161名	(26)	163名	(23)	174名	(26)
12月	246名	(23)	154名	(24)	115名	(19)	101名	(23)
1月	284名	(23)	162名	(23)	160名	(23)	140名	(23)
2月	256名	(20)	175名	(24)	153名	(23)	161名	(24)
3月	315名	(21)	178名	(26)	164名	(23)	156名	(26)
合計	3200名	(266)	1652名	(289)	1818名	(269)	1790名	(304)

平均	267名/月	12.名/日	138名/月	5.7名/日	152名/月	6.8名/日	149名/月	5.9名/日
前年度	235名/月	10.4名/日	63名/月	4.1名/日	126名/月	4.6名/日	126名/月	4.6名/日
のべ 増減	32名/月	1.6名/日	75名/月	1.6名/日	26名/月	2.2名/日	23名/月	1.3名/日

○令和6年度実績額

	生活介護 定員：20名	短期入所 定員：8名	放デイ 定員：10名	日中一時 定員：20名
R6	52,029,312	20,079,509	22,612,217	9,831,740
R5	46,072,270	9,256,160	22,551,930	8,851,800
増減	5,957,042	10,823,349	60,287	979,940

【令和5年度との比較】

各事業所からの問い合わせ・見学等を積極的に受け入れて対応した結果、新規契約に繋がり、令和6年度は大幅な支援費収入増になった。

【ゆいまーる 年齢別・障がい種別内訳】

○年齢別

年齢	のぞみ		生活介護		短期入所		日中一時		合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
0～10歳	13	6			4	1	5	1	30
11～20歳	13	4		3	12	4	8	3	47
21～30歳	5	7	4	2	4	7	7	6	42
31～40歳	10	12	7	4	7	3	5	3	51
41～50歳	11	6	1	1	1		1	1	22
51～60歳	6	8	2	1	1	2	1	1	22
61～70歳	5	8		1	1				15
71～80歳	1	4							5
81～90歳	1	1							2
合計	65	56	14	12	30	17	27	15	236

○障がい種別

身体障がい	39	4	15	14	72
知的障がい	27	2	24	20	73
精神障がい	20	0			20
発達障がい	33				33
身体+知的		12			12
身体+精神		1			1
精神+知的		4	2	1	7
医ケア児	1		3	4	8
医ケア者	1	3	3	3	10

放課後等デイサービス			
きりしま支援学校	性別内訳		計
小学部	男性	3	4
	女性	1	
中学部	男性	7	8
	女性	1	
高等部	男性	2	3
	女性	1	
	男性	12	15
	女性	3	

(人)

都城市内の小学校	性別内訳		計
小学生	男性	3	4
	女性	1	
中学生	男性	0	1
	女性	1	
	男性	3	5
	女性	2	

(人)

○障がい種別

身体障がい児	2
知的障がい児	9
精神障がい児	1
発達障がい児	1
身体+聴覚+知的	3
知的+精神	4
合計	20

4 研修・訓練等の受講・実施状況

4月		
5月	【集合研修】福祉新任職員スタートアップ研修	1名
6月	【集合研修】部下の可能性を引き出すコーチング研修 【集合研修】チーム力を高めるコミュニケーション研修 初任者編 【集合研修】レクリエーション研修リズム遊び編	1名 1名 1名
7月	【集合研修】課題解決力向上研修1・2 【集合研修】記録の書き方研修（障がい児・者） 【集合研修】職員定着につなげるための評価者育成研修	1名 1名 1名
8月	令和6年度第1回消防訓練 【集合研修】福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 初任者コース 【集合研修】福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダーコース	1名 1名
9月	【集合研修】職務を通じて後輩を育てるOJT研修 チームリーダーコース 【集合研修】福祉の基礎知識習得研修	1名 1名
10月	【リモート研修】支援に繋げる障がい理解研修 【リモート研修】社会福祉法人 理事研修 評議員研修	1名 2名
11月	【集合研修】障がい者支援のためのコミュニケーション研修 【集合研修】業務改善の進め方研修 チームリーダー編 【集合研修】業務改善の進め方研修 中堅職員1・2 令和6年度強度行動障害支援者養成研修	1名 1名 1名 2名
12月	【集合研修】レクリエーション研修 機能向上編 【リモート研修】福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員コース	1名 1名
1月	【集合研修】業務継続計画（BCP）研修 【集合研修】福祉職員のための医学基礎知識研修 【リモート研修】保育の現場における安全管理研修 令和6年度保育の現場における安全管理研修	1名 1名 1名 1名
2月	令和6年度第2回消防訓練 【集合研修】社会福祉法人 監事研修 令和6年度基幹相談支援センター障害者虐待防止研修 子供の対人関係を育てるSST&子供への関わり方講座	1名 1名 1名
3月	法人内研修「虐待防止研修」	
その他	毎月1回、法人内研修／虐待防止委員会／リスク管理委員会 等 ※法人全体の火災避難訓練（年2回）を8月／2月に実施した ※放課後等デイでは隔月で避難訓練を実施した	
	・自立支援協議会 会議 相談支援部会 児童部会 重心部会	・MSR総会 ・施設等連絡協議会 ・放課後等デイサービス連絡協議会 ・療育研究会 ・障がい児支援専門性向上研修（南九大） ・CSW意見交換会 ・都城市社協研修

5 苦情・事故等の対応状況

事故報告：7件

4月12日 (生活介護)	報告内容 (転落)	入浴後の更衣を行っていた際、無意識に他者に気を取られ視線を外してしまった為、体動に気付かず足がベッドからはみ出し、ズレ落ちてしまった。すぐに、近くにあった職員に手伝いを貰い、ベッド上に移乗する。
	対応状況	外傷等ないか確認、バイタルチェックを行う。外傷無し。バイタル異常なし。主任に報告し、保護者へ状況説明をし、謝罪をする。その後、様子を見ながらバイタルチェックを行う。帰宅迄、本人の様子、及び、異常等なし。送迎時、再度、状況説明を行い、謝罪を行った。
6月20日 (のぞみ)	報告内容 (車損傷)	利用者様宅を訪問し帰る際、駐車場を出ようとして早く曲がり過ぎてしまい、隣家のブロック塀に公用車（タント）の左後部ドア周辺をぶつけてしまった。
	対応状況	すぐに車から降りて確認。ブロック塀の損傷はなし。タイヤがパンクしている事に気付く。主任に状況報告の連絡を入れる。隣家に状況説明と謝罪に行く。主任より、部長、施設長に報告を入れて貰う。その後、部長が来られ、再度、一緒に謝罪を行った。
6月15日 (日中一時)	報告内容 (器物損傷)	利用者様宅への朝送迎時、キャラバンをバックで入ろうとした際、30cm程のブロック塀にキャラバンの右前バンパー下部が接触。降車しブロック塀の確認を行う。塀には損傷見られず。事務所へ報告を入れ状況説明する。
	対応状況	降車し車、ブロック塀の確認を行う。車にはこすった感じの損傷あり。塀には損傷見られず。事務所へ報告を入れ状況説明をする。主任とドライバーでブロック塀の家の方宅に謝罪に行く。
6月20日 (生活介護)	報告内容 (転落)	入浴後、更衣室にて椅子に座って更衣中（自立の方）自分で座る場所を移動されようとして座る場所を端に座り過ぎて、すり落ちた状態で転落されてしまった。
	対応状況	近くにあった職員が介助し椅子に座らせ、打撲、外傷がないか確認を行う。本人へ痛みの確認をしながら診ていくと左上腕部に1cm弱位の皮下出血と腫脹を発見。他には異常見られず。バイタル異常なし。主任、部長に報告。主任より、保護者へ連絡し状況説明、謝罪を行う。その後、患部に湿布貼布し様子観察。送迎時、再度、謝罪を行った。
7月5日 (生活介護)	報告内容 (誤薬)	ご家族が帰りの迎えに来られた後、忘れ物チェックをしていた時に、薬、水筒、水分ボトルの忘れ物がある事に気付く。薬は、飲ませ忘れてであった。
	対応状況	看護主任から、保護者に連絡をいれ、状況説明、謝罪を行う。薬の飲ませ忘れについては、すぐに、職員に周知を行い、再度、確認方法について指導を行った。
10月25日 (放デイ)	報告内容 (接触)	利用者様宅への帰りの送迎時、駐車場を出る際、車の左右をぶつけない様に、ゆっくり進んでいたが、左前方の部分が接触危険回避を示すランプがつきブレーキがかかった。右側のドアミラーにて確認しながら少し右寄りにハンドルを切り異常ないと思い施設へ戻る。翌日、別ドライバーが車を使用する際、車に損傷がある事に気付く。
	対応状況	事務所へ報告。車両の確認を行う。ドライバー、添乗員ともに、送迎後、車両の確認を行っていなかったの、確認の意識を持つ様に指導を行う。
12月26日 (生活介護)	報告内容 (転落)	入浴後、更衣を済ませ、椅子から立ち上がろうとした際、うまく立ち上がる事が出来ず、滑る様な形で床に座り座り込まれた。
	対応状況	すぐに近くにあった職員が打撲、外傷がないか確認、バイタルチェックを行う。本人へ痛みの確認も行う。打撲、外傷見られず。バイタル異常なし。主任へ報告し家族へ状況説明、謝罪を行った。その後、本人へ声かけしながら様子観察を行い、帰りの送迎時、再度、保護者の方へ謝罪を行った。

ヒヤリハット：14件

5月13日 (放デイ)	報告内容 (ヒヤリ)	兄弟で来られる利用者様の自宅送迎時、ドライバーが車のドアを開け、添乗者がお兄ちゃんを先に降ろし自宅に連れていっている間に、弟さんが車の後部扉の鍵を閉め運転席に移動してしまい、ドライバーが中に入れない状態になってしまった。
	対応状況	すぐに「鍵を開ける様に」声かけをする。何度か声かけをしているうちに鍵を開け、後部座席に戻られた為、添乗者が戻ってきた際には、元の位置に座られていた。ドライバーと添乗員の連携が不十分であった事が原因であった。施設到着後、すぐに状況報告を行い、再発防止策を話し合った。
5月20日 (短期入所)	報告内容 (ヒヤリ)	短期明けの朝食を済ませ学校送迎の時間を待つ間に、本人たちのテンションが上がりが始め、職員のすきを見て、室内から室外に走り出されてしまった。
	対応状況	すぐに職員が追いかけて室内に誘導する。職員のちょっとした油断が原因であった。その後、玄関及びサッシのある箇所のロールカーテン等については、送迎の車が準備できるまでは開けずに、本人達が落ち着いて待てる環境作りをして職員同士の連携を更に強化し、居場所確認を徹底する様に話し合った。
6月11日 (放デイ)	報告内容 (ヒヤリ)	利用者様宅に到着し、荷物と実績票を車から降ろそうとした際、実績票がない事に気付く。車中を探すも見つからず。保護者様に、実績票がない事を説明し、次回利用時に印鑑を頂ける様をお願いする。
	対応状況	施設に戻り、残っていた職員全員で探す。車にあった所を確認している職員がいたので、再度、車中を小さい隙間までみて、カバーになっている部分のネジを外して探したところ、隙間から落ちただろうと思われる実績票が見つかった。次回より、バインダーもしくはクリップボードに挟んで持っていく様に改善した。
6月18日 (短期入所)	報告内容 (ヒヤリ)	6月14日の夜勤者が服薬の準備をしていたところ、6月13日の夕食後の薬が残っている事に気付く。
	対応状況	6月13日の夜勤者へ確認の連絡をとったところ、飲ませていなかった事が判明。6月14日の夜勤者が利用者様のお宅へ状況説明と謝罪の連絡を入れる。2人対応の夜勤であったがダブルチェックをしていなかった事が原因。確認方法を①日勤者→②夜勤者ダブルチェックに改善し、確認意識を高めるよう再発防止の指導を行う。

8月12日 (放デイ)	報告内容 (ヒヤリ)	サンアビリティーでの活動に行く準備中、バギーを利用されている利用者様の固定ベルトを、他の利用者様が外してしまった。自分が乗りたかったので外したという経緯だった。
	対応状況	利用者様の近くに職員がいて注意して見ていく様に指導する。
8月12日 (放デイ)	報告内容 (ヒヤリ)	サンアビリティーでの活動を終えての帰る準備中、バギーを利用されている利用者様の固定ベルトを、他の利用者様が外してしまった。自分が乗りたかったので外したという経緯だった。
	対応状況	同日に同じヒヤリが発生した事は大きな事故に繋がりにかからないので今後は、隣に職員が必ずいる様に配置を行う様に周知徹底する。配置がされていても職員一人一人の意識が低ければヒヤリは起きるので、職員全員の危機管理意識を高める様に指導を行った。
8月19日 (放デイ)	報告内容 (ヒヤリ)	サンアビリティーで「だるまさんが転んだ」の活動中、最初は皆と参加を楽しんでいた利用者様が、3回目の時に後方から動かず、窓枠によじ登り、バスケットのリングに捕まろうとした。
	対応状況	皆と楽しんでいる様に見えても突発的な行動を予測して対応する様に表情や動きをよく観察する様に職員間で役割分担等して対応する様に指導する。
8月19日 (放デイ)	報告内容 (ヒヤリ)	給食後の自由時間に、職員の間をみて利用者様が玄関から畑に向かって走って出ていってしまった。
	対応状況	子供達一人一人の障がい特性や動きを、職員一人一人が確実に把握し支援を行う必要がある事、また、視野を広く意識して支援を行う様にしていく事、職員間、お互いに声かけをもっと密に行っていく様に徹底していく。
8月23日 (放デイ)	報告内容 (ヒヤリ)	職員と一緒に遊んでいた利用者様が、職員が近くにいた利用者様に視線をうつした数十秒の間に、その場から、自分の靴を片方持ち、敷地内の公用車と公用車の間まで出ていってしまった。
	対応状況	職員の配置について担当制にする。やむを得ず、その場を離れる際は、他の職員に声かけをして変わって貰ってから離れる様に周知徹底する。早急に、玄関の自動ドア、放デイ出入口については、再発防止策を検討する。(※現在は、対応済み)
9月17日 (放デイ)	報告内容 (ヒヤリ)	送迎時、施設に到着した際に、キャラバンのスライドドアにチャイルドロックがかかっている利用者様が降りようとしても出られなかった為、昇降機のある部分の非常ドアノブを開けてしまった場面を職員が気づき、すぐに近寄り対応を行った。
	対応状況	利用者様は、すぐに降りたいという気持ちから予想外の行動を起こす時があるので、職員間の声かけを十分に行い必要時には、ドライバーさんの協力も貰い対応を行う。
11月7日 (放デイ)	報告内容 (ヒヤリ)	利用者様が車から降りる際、バランスを崩し、前方へ向けて転倒しそうになった。
	対応状況	普段から、後ろを振り向き「バイバイ」をする癖がある事を職員全員に周知し降りる際は、ドライバーと添乗員で連携し安全面に配慮した対応を行う様に注意する。
11月7日 (放デイ)	報告内容 (ヒヤリ)	利用者様の自宅敷地内で、車を停車しようとしていた際、飼い犬が飛び出してきたのに気づかず轢きそうになった。
	対応状況	冬に向けて暗くて見えにくくなる為、ドライバーと添乗員は、後方確認を確実に行うようにする。保護者の方に送迎者が確実に停まってから、玄関のドアを開けて頂く様に協力を依頼する。
11月22日 (生活介護)	報告内容 (ヒヤリ)	利用者様から、乾燥した咳が聞こえてきた為、吸引をしようと準備をしている際に、気管内カニューレが外れている事に気付く。
	対応状況	すぐに車椅子からベッドへ移乗し外れたカニューレを探したが見つからず。他の職員にも声をかけて探して貰う。その後、左側の上着と下着の間に挟まっているカニューレを発見。消毒し、看護師がカニューレ挿入を行った。酸素を流し、SPO2を行い95%で異常なし。その後、職員全員で様子観察しながら再発防止を行った。
2月11日 (短期入所)	報告内容 (ヒヤリ)	支援学校の送迎時、学校の正門で、副担任の先生がお迎えに来られ後部座席のドアを開けた際、副担任の顔を見た瞬間にドアを勢いよく閉めてしまった。
	対応状況	本人の学校でおかれている状況の確認が不十分だった。ご家族より、情報提供を頂き今後の対応について話合う。(お母様より：副担任の先生を怖いと思っている状況である) 今後も変わった事があったら、お母様へ連絡を入れる様に決まった事を送迎に入る職員に周知する。